

令和6年度 第1回総合教育会議議事録

1 日時

令和6年11月27日（水） 午後3時00分

2 場所

役場3階中会議室

3 出席者

（1）当別町

後藤町長

（2）当別町教育委員会

三澤教育長、武岡委員、小林委員、佐々木委員、大畑委員

4 説明員等

（1）当別町

企画課長 星 野 寿 幸

企画課主幹 永 井 敬 洋

企画係長 高 田 龍 一

企画係 田 中 大 樹

（2）当別町教育委員会

教育部長 山 田 雅 俊

学校教育課長 高 田 訓 之

学校教育課参事 川 村 秀 夫

社会教育課長 村 上 賢 二

教育企画係主査 下 村 兼 生

教育企画係主任 高 橋 侑 己

5 傍聴者

2名

6 議事の要旨

(開会)

企画課長

定刻となりましたので、「令和6年度第1回当別町総合教育会議」を開催いたします。なお、本会議は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に基づきまして、公開となっております。また、傍聴につきまして許可をしておりますことをあらかじめご報告いたします。それでは議長であります後藤町長よりご挨拶をいただき、引き続き以後の議事について、議長の進行により進めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

(町長挨拶)

後藤町長

本日は教育委員の皆様にはお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。令和6年度第1回の総合教育会議を開催させていただくこととなりました。今回、提案となります大きく2つのことを議題とさせていただきますが、よろしくご審議をお願いしたいと思います。

その前に、教育長職務代理者であります武岡職務代理者が、文部科学大臣賞を受賞されまして、先ほど伝達をさせていただきました。武岡職務代理者におきましては、これまで教育行政に色々と携わっていただく中、適切なご助言等をいただいております、当別町の教育行政の発展のためにこれまでご尽力とされたことを、改めて感謝を申し上げるとともに、今後ともよろしくをお願いしたいと思いますので、引き続きよろしくお願いいたします。

さて、本日の会議では、先ほど申しましたように、「当別町教育大綱」と「当別町一体型義務教育学校基本構想における独自基準」について議題とさせていただきます。

これまで、教育委員会でもこの件につきまして議論をいただいたところでもございます。そうした中、令和7年の3月で改定時期を迎えることとなっております当別町教育大綱であります。私と皆様方の双方で、教育課題等を共有した上で、当別町教育大綱に沿った施策がスムーズに実現できるようしっかりと議論をしてまいりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

また、平成30年の8月に策定をいたしました当別町一体型義務教育学校基本構想に関しましては、とうべつ学園建設に当たり策定した基本構想でありますけれども、今年の6月の町議会定例会に一般質問で独自基準についてご質問がございました。教育委員会といたしましては、再協議を行うとともに他市町村の状況を踏まえた上で、考え方をまとめていただいておりますので、本日はその

結果を踏まえ、本会議の中で議論を重ねてまいりたいと思います。短い時間となりますが、よろしくお願い申し上げ、冒頭の挨拶とさせていただきます。それでは議事に入らせていただきます。

はじめに、協議事項の1番「当別町教育大綱」について、事務局からまず説明をお願いいたします。

学校教育課参事

(資料により概要説明)

町長

ただいま、当別町教育大綱の説明がございましたが、皆さんから忌憚のない意見をいただければと思います。今ほど説明がありましたが、当別町の教育の歴史に根差した教育大綱にしたいという思いがあり、また、説明でも当別町教育理念が昭和31年という話がありましたが、現代に通用するような理念をこの頃から持っていたということは、教育に対する当時からの思いというのは強かったと思いますし、時代を読む力といいますか、そういったものがあつたと思います。年数が経っても色褪せていない、やはり幅があるということは素晴らしいことだと思います。不益と流行という話もありましたけれども、基本計画と推進計画によって、時代に合わせて変えていきたいということですから、そういった趣旨でよろしいと思いますけれども、ご意見をいただければと思います。

武岡委員

当別町教育の基本方針の中では、学校教育と社会教育について、大人の目線からの方針が書かれております。昨日、白樺コミュニティセンターでタウンミーティングがありました。数度にわたる話し合いの結果の発表会がありました。その中で、小学生から大学生までの子どもたち、生徒・学生さんたちの話を聞くことができました。具体的な中身は、「人に優しい町であってほしい」、「自然豊かなこの町を壊すことなく守っていききたい」、「人口減にどう立ち向かうか自分ごととして考えたい」、「若者がたくさん集うことができる町にしたい」という意見が出ておりました。タウンミーティングを開いていただいて、そのような意見を吸い上げることができるということも素晴らしいことだと思いますし、子どもの目線からの発言を聞くことができ、私は正直、自然豊かな町を守るという意識がなく、当然だと思っていたものですから、子どもの視点というのはすごいなと思わせていただいた次第です。

大人の目線からの方針、そして子どもの考えをきちんと大事にしていこうという、そういう姿勢は非常にありがたいという気持ちで、昨日参加させていただ

きました。以上です。

町長

当たり前のことは、自分たちで振り返る機会もあまりない、意識することもありないので、タウンミーティングの子どもたちの発想というのは、やはり大人にとって光るものがあるのだろうと思います。その他、どうでしょうか。

教育長

私は、十勝から当別町に移り住み、そして、この職をいただきまして最初に部屋の中にある色々なものを整理、拝見していく中、この昭和31年の時の教育目標に出会いました。それを読みましたときに、なんと当別町は素晴らしい町だろうと思いました。それは、教育というものが文化としてしっかり根付いている町であるということはこの文の中から読み取ったからです。歴史に根差している教育の町「当別」。ここが何よりも普遍的で素晴らしいところではないかなと思っています。今回の改定に合わせまして、もう一度、当別町の歴史的なものを振り返りながら、そして今、子どもたちが学んでいる当別未来学の中で、歴史教育にも触れているところがございますので、そこに普遍性を求めながら、新しいことはどんどん新しいものとして取り組んでいく。そして古いものをしっかり根っことして動かないものとして持っている。このことが、当別町の教育をより重厚なものにするという感覚でとらえております。

そういう中で、この大綱がより次の具体的な取り組みの基本になることを目指していければいいと思っていますところです。

町長

ありがとうございます。色褪せてないというか、先ほどタウンミーティングの話もありましたが、自分たちが気づかないことは、色々ありますが、その中に本質を突いたものというのは結構あると思います。そういったものを当別町の歴史の中に教育の淵源を見出していただけたいというのは大きいことだと思いますし、過去の議会の議論等を踏まえましても、当別町の義務教育は鮎田塾に既存しているというようなことを引用して、当時の議員さんが一般質問されていたことを思い出しましたが、そういうことなんだろうなと思います。現代に生きる子どもたちを教育する上で、先人たちが辿ってきた教育の歴史をしっかりともう一度噛み締めながら、未来を築いていく子どもたちの教育に当たっていくということは必要なことだと思いますし、そのことが学校現場で実務に当たっていただく先生たちに波及していくということも大事なことだと思いますので、この大綱に沿って、これからの教育を進めていただきたいと思います。

町長

その他、どうですか。

小林委員

総合教育会議は、首長が開催しているもので、首長が変わるたびに基本理念が揺らぐようなことがあってはいけないと思うぐらい良い理念と思っております。私はこの理念というものはあまり変わらないことを望んでおりますので、この総合教育会議でこのことを確認できればいいかなと思っております。

町長

私も今回この議題に接しまして、今の教育大綱を読ませていただきましたが、これまでの教育大綱がダメだということではなく、理念として2つ挙げられています。「1 目指す人間像「社会を背負う、世界にも通用する『知・徳・体』を備えた人」の育成」、「2 幸せを実感できる生涯学習社会の実現」と2つの理念が挙げられています。この理念も決してダメということではありませんが、やはり当別らしさというか、先ほど昭和31年に制定した基本理念だという話がありましたが、今の子どもたちにとって必要であり、これからの将来を担う子どもたちにとって必要な理念がしっかりと入れられていることが、当別町の教育の歴史がしっかりと支えていると改めて思い直させていただきました。この教育大綱についてご賛同をいただければ、これを大綱として決定をさせていただきたいと思いますがよろしいでしょうか。

委員各位

異議なし。

町長

異議なしということで、決定をさせていただきます。

町長

続きまして、協議事項の2番目、「当別町一体型義務教育学校基本構想の独自基準」について、事務局から経緯等につきまして説明をお願いいたします。

教育長

資料の説明の前に、私からこの案件を議題とした経緯についてお話をさせていただきます。

本件につきましては、平成30年8月に策定した当別町一体型義務教育学校

基本構想において、小学校１・２年生においては学級編制の基準を２９人とする当別独自基準を設定し、教育委員会で決定した以降、各種計画や規則等で独自基準として定めることなく、教育委員会において議論のないまま、現在に至っていたことにつきまして、６月の町議会の一般質問において質問を受けておりました。教育委員会として、その可否について協議をすることとし、改めて協議を重ねてきたところでございます。教育委員会としては、この総合教育会議の議論を踏まえ、当別町一体型義務教育学校基本構想における独自基準について最終的な結論を出してまいりたいと考えておりますので、どうか町長のご意見等もいただきながら、活発な議論を最終段階としてさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

学校教育課長

（資料により概要説明）

町長

独自基準に至った経緯も含めまして、少人数学級と少人数指導という点ですとか、少人数学級と北海道の基準のメリット、デメリット、そして、実際に清水町に研修に行き実態を調査され、当別町と比較をした上で一定の判断をさせていただいたということとっております。結論としては、最後に検討結果としてまとめておりますが、まず、それぞれ報告いただいた中身について、私からも若干ご質問をさせていただきたいと思っております。

まず、独自基準に至った経緯ですが、６月の議会で指摘もされまして、私も議長時代にとうべつ学園の建設に携わって、そのことを当時の教育長から説明を受けた経緯がございました。

しかしながら、結論にもありますが、当時、学級編制の基準に達することがなく、独自基準を適用することがなかったこと、当時、おそらく少人数学級の必要性ということについては、色んな見方があり、特に、この設定をされた数年前から小学生の学級崩壊が社会的な問題になった時期だったと記憶しています。このようなことや新たに義務教育学校を建設する中で、教育の質を高めたいということもあり、独自基準ということが、教育長の中から出てきたと感じております。先ほどの説明の中では、当時、学級編制の基準に達することがなく、独自基準を適用することがなかったと結論付けていますが、基本的に教育委員会の議論の中で学校の建設後、独自基準がテーマになったことはなかったのですか。

小林委員

特にそういったテーマでの議論はなかったので、今に至っているところです。当時から加配や人的な部分というのは、とうべつ学園や西当別においては、ある程度は一貫推進教育の中で入れていただいていたので、人数による支援といった形でやっていただいていたので、多分不具合を感じていなかったと記憶しています。

町長

幼稚園や保育所の園児・児童数が分かっていると、大体何年後にはこのぐらいの人数になることが分かっていたことだと思いますし、時代の変化もあって、そこにこだわるのではなく、もう少し前向きに全体をまとめていこうという考え方や動きがあって、このようになってきたと思います。

しかしながら、議会の場でも議論したことでしたので、教育委員会としてもその点が欠落していたということについては、反省をするべきことがあるのではないかなと思います。

ただ、実際の現場の選択としては、おそらく教育委員の皆様が色々と議論を普段からされているように、教育現場も含めて、支援員を多くする費用対効果やあるいはクラスを増やし担任を多くしていくとなると教員を新たに見つけなければならない。そういったことがあって、例えば、その年は良くて、その次はどうするのかですとか、色々な弊害も出てくると思います。そういったことも加味しながら、現状に合わせていったという理解はします。

ただ、現状で支援員を多く配置していただいているほか、スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー、特別支援学級の支援、学力向上推進講師、英会話など、このような方々が学校全体として、クラスや学年もそうですが、大勢の方々が子どもたちを教育するというシステムを作り、支援を多くしていくということが、今の教育にとって必要だと教育委員の皆様が考えているということではよろしいでしょうか。

武岡委員

私、現在、札幌の小学校2校で時間講師をしております。ここ数年やっていますが、通常学級における配慮の必要な子どもが確実に増えているような現状があると思います。1学年2クラスにして、それぞれ教員を配置するという対応をしたときに、それぞれのクラスにそういう子どもがいたときには、さらに補助教員をつけなければならないという現状が生まれてきて、人材不足の昨今の状況を考えたときに非常に難しい。私は現在70代の半ばに差し掛かっていますが、私にも声がかかるぐらい人がいない。札幌でも人がいない状況で、本当にいない

です。そんなことを考えたときに、委員会の考え方は、間違っていなかったと思っております。その点で少しお話しさせていただきます。主なデメリットの中に関わる内容に関連してですが、昨今の教員不足の現状を考えたときに、新しい学校を作るにあたっての当初の考えは、資料の冒頭に出ているとおりでありました。ところが、昨今の教員不足というのは目に余るものがあって、当初の計画通り行おうとしても教員のなり手不足で、まず人材がいない。一昨日25日の新聞にも出ておりましたとおり、小中学校では昨年の4月の1学期から始まる時点でも12%余りの学校で教員に欠員が生じている。年間を通すと、およそ2割の学校で教員が不足して、授業にも支障が出ているという報道がありました。このような状況の中で、町独自で学級増をしたときに、必要な教員というのは町が独自に探さなければならない。

また、教員探しは非常に困難であると思います。町の財政状況も昨今、様々な課題を抱える中で、国の基準を超えて配置する教員の給料は、町で全額を負担しなければならないなど、開校前に私どもが考えていた予定を残念ながら、変更せざるを得ないということになったのではないかと思います。

そこで、当別町では1クラスの人数、北海道の基準通り最大35人として、その代わり北海道費負担と町費負担の補助教員を可能な限り確保して、子どもの実態にあった、きめ細かな指導をしていこうということで、現在、取り組んでいると考えております。

北海道教育委員会からの加配や子どもの教育に大変力を入れてくださっている町独自の予算による会計年度任用職員を合わせると、今年度は資料にも出ておりますけど、24名ものスタッフで、子どもたちに対する手厚い指導がなされております。その成果が先ほど説明がありましたけれども、学力テストの結果等にも現れてきているということでもあります。当別町が取り組んでいる学級編制の考え方についての現時点での施策と方向は、現在の学校や町の財政状況を考えたときに、私はこれでいいと考えております。以上です。

町長

色んな教育の方法に対する考え方があるのは良いと思っていまして、何が正しいとか、何が正しくないとかという話ではないと思いますが、現状からいきますと、やっぱり今お話にもありましたが、教員の皆さんの働き方改革や労働時間の短縮、色んな場面で学校現場の先生に対する配慮が必要になってくると思います。そういった中で、新聞報道では、教員の長時間労働の改革や横浜の例では、当別町は支援員を多く使っていただいています、多様化する学校現場のニーズに応えるという点で、元校長がいわゆる支援員となって副校長をサポートするなど、教頭先生や副校長の学校運営に対する時間が相当上がってきたという

ような報道がされています。

また、職員室の業務アシスタントを配置するというのも横浜ではされており、そういったことも学校運営全体あるいは教員全体がしっかりと子どもに向き合う時間ができるというようなことにもつながっていると思っています。

そのため、今クラスの基準をどうするかということで議論していますが、単に子どもの人数を少人数で行うから良いということではなく、子どもたちの周りにどういうスタッフが揃っていて、子どもたちの個々の状況に合わせて、きめ細かい指導がいかに行えるかということが学校の運営に求められているとは思いましたので、今回、北海道の35人の基準を守りながらしっかりと支援員を増やして、学校全体の運営をしていくということが、先ほどお話しがありましたように、学力にも現れてきているということでもあります。おそらく現場の先生からもそういう評価をいただいているのかなと思いますが、教育長から学校の中でそういった評価を聞く機会があれば教えていただければと思います。

教育長

この件につきましては、当別町は非常に恵まれたスタッフを配置した中で授業や学校運営をやらせてもらっているということに対して、校長や教頭、学校を経営していく立場の管理職のみならず、一般の先生方も感謝をしているところでもあります。感謝という言葉がふさわしいかどうか分かりませんが、今の教育を展開していく上で、適したスタッフを適時配置することができている。さらに、それを校長の裁量によって年度内に自由に変化して使うことができる。ここが当別町の教育の特色であるというふうにも各方面から言われているところでもあります。

先日、11月1日になりますが、石狩管内の教育課題研究発表会の当番になっておりまして、とうべつ学園を会場に授業公開がありました。その折に、400名程度の管内の先生方が集まられておりました。さらには、各市町村の教育長さんも集まっておりました。そういう中でも、この恵まれた人員配置というのが当別の今の授業スタイルを生んでるところを高く評価していただいたところでもあります。そういうことも含めまして、フレキシブルに人を使える状態を学校に委ねることができている今の当別町の複数指導体制というのは、非常に評価が高いと考えていただいてよろしいと思います。

町長

はい、ありがとうございます。その研究発表会に私も参加させていただきましたが、道内から多くの先生が来られていて、その中の何人かに、町長さんすごいですね、という話をされました。やはり、先生の授業がどう行われているかという

ことも当然ありますが、子どもが主体的に発言をしたり、あるいは周りに大勢の大人がいる中で、物応じもせずに授業を受けているというそのすごさも感じました。あと、外国籍の子どもが当別町に20数名おりまして、各学年にありますが、そういった子どもたちを集めて日本語の指導をされていたり、パーシャルに子どもたちに教育している、そういった体制がやりやすい学校になってるということは感じました。当初、教育委員会が挙げていた当別町の独自基準というものも1つの方向ではあったと思いますが、今の時代の中で、そこよりは教育委員会が行っている支援員を多く置くことによって、子どもたちの多様性に対応できる指導体制を作っていく、そのことが当別町の教育を上げていると感じました。

まだまだ、色んな見方があるかもしれませんが、今回の検討結果については、私は方向性としては間違っていないと思いますが、皆さまからご意見あれば受けたいと思います。特に、保護者という視点では、子どもたちの実際の感覚等について何か感じたことありますか。

小林委員

外国籍、外国ルーツを持つ児童生徒が突然増えてきた。その時に、やはり文化が違うので、子どもたちも最初は戸惑う。でも、その子どもたちをしっかりとこの人数がいるので、教育ができて、日本語を話せる子どももいますが、話せない子どもたちは、やはりそこで子どもたちなので、日本語であったりなんたり、こういったものができてくると結構しっかりとまとまっていくというか、そういった部分では、やはり今のとうべつ学園に関して言うと、すごく人員を配置してくれているというのはありがたいのと、保護者目線で見ても感じます。そのため、外国籍の子どもたちも、もう少し年を取った時にあまり偏見を持たずに会えるような、今は教育環境ができていのかなのというのはすごく感じます。

町長

とうべつ学園の建設時にこの話が出てきたので、とうべつ学園に限って話をしていましたけれども、当別町は、分離型での一貫教育を西当別地区で行っています。小学校と中学校が分かれて、それぞれがお互いに行き来きしながら、中学校に上がる際の中1ギャップを解消するようなことも含めて、色んな取り組みをしてもらっていますが、支援員については西当別地区についても同じようにしていただいているという認識でよろしいですね。

ただ、私も夏に現地を視察させていただきましたけれども、やはり西当別地区の小中学校は、もともと教室の基準がちょっと狭いということがあります。中学校2年生については、私も先生の机と生徒の机が横に並んでいるという状況は解消しなければならないと思いましたので、12月に教育委員会と相談しなが

ら補正予算を出させていただこうと思います、検討させていただいています。

やはり、それぞれ現状の課題を解決していくということも含めて、今後、総合教育会議の中で議論をしていきたいと思ひますし、今回は特に、教育大綱とこの少人数学級、独自基準の関係でありましたけれども、今の子どもたちの置かれている状況をいかに改善し、将来を担う子どもたちの教育を充実させていくかという視点で、さらに議論を尽くしていきたいと思ひます。

今回、この独自基準の評価につきましては、最終的に検討結果で述べられていますが、これを基本として、今後、進めていただくということで、理解をしたいと思います、よろしいでしょうか。

武岡委員

当別町の課題のところの幼保小との接続の部分とちょっと関連がありますが、当別町に限らず指導されている先生方の今の指導上の課題として大きくなってくると考えられるのは、特別に配慮が必要な子どもたちへの指導法について、指導する側がしっかり勉強して対応しないと、その子どもの成長に悪い影響を与えてしまうのではないかとということが一番懸念されると思ひます。

ただ単に怒るだけでは絶対ダメで、その子どもの状況等を把握し、皆さんの共通理解の上で、チーム学校で対応していく。そのようなこともこれから考えていく必要があるのではないかとと思ひます。

町長

教育に対する色んな視点とか、あるいは指導する側の質というか、そういったことが必要だということがありました。なかなか人がすることですので、100%完璧とはなりません、先ほどご紹介した横浜の例をとりますと、やはり、多様な外部人材を活用することによって、チーム学校ということで、先生だけではなく支援員の皆さん、あるいは保護者の皆さんも一緒になって子どもたちを育てていく、そういう学校づくり、例えばコミスクといった地域の色んな人たちも関わる中で行っていく、そういう体制づくりというのは必要なんだろうと思ひます。今回は独自基準という点での議論ではありましたが、その議論を通して、今後の当別町の教育をどうするかというところまで踏み込んでお話ができたのではないかとと思ひますので、そういった方向で、今後とも、教育委員の皆様にはご努力をお願いしたいと思ひます。

ご意義がなければ、基本的に今の当別型複数指導体制を継続していくということで、総合教育会議の中では結論付けたいと思ひますが、よろしいでしょうか。

委員各位

異議なし。

町長

それではそのようにさせていただきます。それでは、本日予定をしておりました、議事につきましては全て終了いたしましたけれども、事務局から何かありますか。

それでは、以上をもちまして、令和 6 年度の第 1 回当別町総合教育会議を閉会させていただきます。ありがとうございました。